

美唄歯科医師会 歴代会長の紹介と思い出

初代会長	高橋	常保先生
第二代会長	北野	幸夫先生
第三代会長	扇谷	一貫先生
第四代会長	雨田	実先生

美 唄 歯 科 医 師 会

歴 代 会 長



初代会長 高 橋 常 保
(昭和23～昭和25)



第二代会長 北 野 幸 夫
(昭和26～昭和35)



第三代会長 扇 谷 一 貫
(昭和36～昭和46)



第四代会長 雨 田 実
(昭和47～平成8)



第五代会長 宝 崎 錠 二
(平成9～)

初代会長 高橋常保先生

新生美唄歯科医師会の初代会長の栄は高橋常保先生にあり、2期4年の任を全うされた。実際は大正7年美唄でその第一号として開業されて以来空知支部会美唄方面会時代を通じて、新生の美歯会に至る迄、終始一貫、先頭に立って活躍されたのである。

先生は、歴代の会長をユニークな着眼で観察され昭和36年の道歯会通信に「美唄あれこれ」と題し美歯会草創の頃を振り返っておられる。

美唄あれこれ

1、美歯会長と宗教

初代高橋氏は平々凡々、東本願寺派真宗の門徒だが好んで禪の本を読む。

二代目会長北野幸夫氏は、周知の如くクリスチャンであり、お父さんは古くから伝道に従事され、幌別、美唄に広くその名を知られた。

大正6年頃、夕張の故梶徳太郎氏が歌志内に開業のおり美唄に分院を設置し、留萌の名誉市民伊佐津氏が未だ上京前にこの分院におられた。そのころ北野氏が伊佐津氏に歯科の手ほどきを受けたものと見える。妹背牛にいた浜田氏もそのころ梶氏のもとにいたのであろう。美唄にはつい先年までキリスト教の教会は、北野氏のお父さんが伝道に従事されていた教会が唯一のものであったが、今は三つ位に殖えている。北野氏はお父さんの歿後もその教会に何かとお世話をしておられる。十年間も会長の席についておられたということは、宗教的に練られた人格によるところが多いのであろう。

三代目の現会長扇谷一貫氏は、御実家が奈良の名刹、仏陀山東南院弘福寺であり、山号、院号、寺号を朝廷から戴いた寺院である、通常川原寺と呼ばれている、著名な寺である。今は令兄重憲氏が住職となっておられ、寺に国宝も備えられてあるという。

重憲氏は美唄に開業しておられた歯科医であり、空知支部会の副会長も勤められた方である。今でもクランクがあれば寺の一隅で診てやるという。寺務の傍わら幼稚園も経営しているので、なかなか忙しいらしい。美唄にいたころは“大和の和尚”というニックネームで通っていた。今は紫の衣を纏う坊さんとしては高位を占めている。現会長一貫氏が戦時中再三召集の都度、奈良から駆けつけて後顧の憂いなくしめた兄弟愛の美しさは、われわれを感激せしめたものである。

祖父もたしか住職であられ、お父さんは教職にあつて校長さんであつた。こんな環境に育った一貫氏である。もちろん敬虔な仏教徒であり、お経も読めば仏画も集める。たしか郷里には静かな山腹に好きな一小庵があるという。

美唄ライオンズクラブの1年理事であり、会員委員長である。兄の重憲住職も呑ん

だが、一貫会長も人後に落ちず呑む。ニックネーム“酒天童子”

2、空知の初期開拓

大正の初期には、空知支庁官内には未だ歯科の開業医はいなかった。いわゆるモグリと称する「チミモウリョウ」が横行跳梁していたのである。

大正5、6年ころ、滝川に故佐藤勘次郎氏が開業したのが歯科開拓の第一歩である。もっともその前年深川に勤務されていたという空知の大先輩である。大正7年の2月ころ、岩見沢に陸原大輔氏が第二陣を承り同年5月高橋氏が美唄に開業したのが第三陣となる。陸原氏は今は十勝方面におられる。第三陣の高橋氏も開業前一年夕張に勤務していた。続いて夕張に宮坂金弥氏、深川に鈴木繁一氏、由仁に服部友韶氏と開業されている。服部氏も開業前栗山に勤務されていた模様である。

その後のことはよく判らぬが、深川の鈴木氏がよく知っていることと思うので、どうか空知の歯科歴史を發表してほしいと思う。今のうちに纏めておきたい……。

美歯会元副会長、現在も会員であられる、御子息の高橋常美先生（札幌在住）が「わが父」と題し、常保先生を紹介されている。

父は明治24年、青森県に生まれる。祖先は徳川時代から何代も、弘前に於て奈良屋という屋号で薬種商をいとなんでおり、その当時、弘前ではそのほかでは呉服商の金木屋の二軒だけが、梁上の 税（うだつ）を誇り、共に金看板を上げていた大店であり、藩の御用を承わっていた。所謂御用商人であったという。

何ひとつ心配のない大店に生まれたのに、どうして長男である、私の祖父が家を継ぐのを、いさぎよしとしないで、明治33年青雲の志をもって津軽の海を渡って函館に居を定めたのか？定かでないという。父は明治40年歯科医を志し札幌の林 清太郎氏の門をたたいて、門下生として5年間、勉学に勉め林先生の眼がねに倣うことを認められ、明治45年東京歯科医学校入学、大正2年歯科学科試験合格、翌年開業実地試験合格する。その当時、殆んどの受験生は、学科にしろ実地にしろ、何ごと3度の例えで、何度も受験に通ったらしいのに、ストレートで両試験に合格したことは、林門下の最右翼の優等生である。御礼奉公の後、大正6年夕張に於て開業、同7年、美唄に於ける第1号の開業医として、北海道歯科医師会、空知支部、美唄方面会を大正13年発会、会長就任、昭和23年新制美唄歯科医師会、初代会長就任後2期4年合計30年に近く美唄の中心的存在として続投したことは、長男の小生が言うのも、どうかと思うけれど、美歯会の最大の功労者の一人と言うに相應しいのではと思う。息子が親を手ばなしでほめる、こんな親孝行な話はないと思います。

父と長男（2人の姉1人の妹を含めて）の最大の不幸は、つれ合である妻（小生達の母）を早く亡くしたことであると思う。歯科医院を開業し、代診始め技工士、書生の外に4人の子供がいては、後妻を迎えないわけにはゆかなかったであろうと思う。生さぬ仲の多くの子供の世話をした継母も、随分とご苦労であったと思う。幼い子供達（私を含めて）も幼い胸を何度も痛めたのも本当である。間に入って父も胸を痛めたことが多くあったと思う。すべてこれも前世からの、さだめとして、あきらめるしか仕方がない。亡き両親と継母の、安らかなる成佛を祈念しながら、合掌の毎日を送っている。

美子の町は
うつくしきうた
とくとならぬ町
はむいとならぬ
村もあるらしい
曲まなる野火
ひらり空に煙
沈みたる月影
北の国はよいの
町にききかへる
ときとなる。
今度八月の十
五日頃には
平和なるタイフ
の来るころく
ひにけり
とうとうといく
タイフの来る色は
秋のとりみどりの
山のふもとには
人の心にさす

林 芙美子
〈直筆〉

第二代会長 北野幸夫先生

朝のうた

北野北秋

朝の交響楽を恵山の宿に聞く

ウグイスのヴァイオリン

カッコウのフルート

カラスのサキソフォン

そして谷川のせせらぎ

自然は神の啓示を

人に与える、恵みである

さらば、よく云えり、恵山と

1968年 6月恵山高原ホテルにて

美唄歯科医師会第二代会長。5期10年。

明治33年9月、函館市に生を受ける。牧師職の父、幸太郎氏と共に大正4年美唄町に移住する。東京歯科医学校（現東歯大）を卒業、大正14年、美唄に歯科医院開設。平成4年元日に享年91歳でご逝去さる。

昭和63年迄の64年間の長きにわたって、文字通り、生涯現役の歯科医としての人生を歩んだ。

大正末期から、戦前、戦中において、美唄市で数少ない青年歯科医として、市民の歯科医療、歯科公衆衛生に一身を投げうつ。特に学童を対象にした学校保健に尽力され大正末期から当時としては快挙である、学童の要抜去乳歯の抜歯を実施する等、大活躍された。

その功あり、昭和49年には、美唄市々政功労賞を受賞された。

又、昭和58年には、道学校保健会から、学校保健功労者として表彰された。美唄市開基百年記念式典には永年在位功労者としても表彰されている。

昭和26年美唄歯科医師会長に就任し、5期10年にわたって、会長職を全うされ、昭和36年顧問に就任、以後も長きにわたって会の運営の指導にあたった。

昭和56年に、八十才以上にして在会50年以上の会員として、道歯会から顕彰を受けられた。

幅広い趣味は、ピアノ、カメラ、愛犬家であり、クリスチャンネーム、パウロ・ユキオ・キタノとして、毎週日曜の早朝には、美津子夫人と同伴で、教会に礼拝に向かわれたお姿が偲ばれる。

長男、繁雄氏は、明海歯科大教授であったが、平成10年3月になくなられた。

長女、久美子さんは佐藤 毅函歯会会員に嫁がれた。

氏の道歯会通信に掲載された「朝のうた」の詩を冒頭に、「秋に寄する」を以下に掲載する。

秋に奇する

北野北秋

うかうかと海迄来り夏の月

方円

今は亡き方円の句である。句として上出来とは言えぬが変にひねってなく実感が残る。

私は月を見る度にこの句を思い出す。方円師は私の先輩で長い知友の間柄故に尚更であらう。

月を土足で荒らして科学の勝利を誇るが、私にはススキを通して見る秋の月の美しさは何にもたとえようがない。

公害を生む豊かさよりも貧しくとも心富む精神文化に還りたいと望むのは年寄りのせいであらうか。

医療においても然り、算術より仁術の方がどんなに高度な心の世界かは申すまでもないが算術にたよらざるを得ない現実は本当に寂しい限りである。

札幌の紅葉（モミジ）や庭のナナカマド



三井美唄国民学校（昭和16年頃）

第三代会長 扇谷一貫先生

第三代美唄歯科医師会会長。在位六期半、11年に及ぶ名会長であった。奈良県明日香村の名門川原寺の生まれ、そこの住職の次男として出生、一貫と命名された。(正しくは“かづつら”と呼ぶ)

昭和初め、青雲の志をもって、実兄重憲氏(歯科医)を頼って、渡道する。当時としては、文字通り、草深き、美唄市我路町に居を定め、歯科医師として地域医療の為に、五十年以上に渡って尽力されたのである。

現在は閉山してしまったが、三井鉱山、美唄鉱業所病院に歯科を創設、その後、開業。美唄歯科医師会々長、美唄市国保運営常任委員、美唄保健所運営委員を歴任された。管内の小中学校の校医を務めるほか、地域医療にも貢献するをもって、昭和51年には、美唄市民功労賞を授与された。さかのぼれば軍歴としても、現役入営のほかに、幾度も応召され、勲七等青色桐葉賞、功六級の金鵄勲章に輝く。

斗酒なお辞せざるをもって、酒天童子の仇名を冠せられ、又、酒を目方で計るわけでもないが一日にたしなむ重量が、それだけであったのか、自他共に一貫(いっかん)先生と呼ばれるようになった。

酔って歌う唄は只一つ、「水も豊かな黒竜江の岸の繁みは吾が住み家、水を鏡にヒゲ面すれば、満洲娘も、ひと眼ほれ」であったとか。

惜しむらく、昭和54年1月22日享年74才にて生涯を終える。元美唄ライオンズクラブ役員、囲碁初段。

今はなき、幸栄夫人との間に二男四女の父。長男、明典氏は、前美唄歯会専務理事、現監事。次男泰典氏は、一時、美歯会在籍、現在、当別町にて御開業。

第四代会長 雨田 実先生

美唄歯科医師会、第四代会長。現在は顧問の雨田 実先生と美唄歯科医師会との出会いは、戦後、新制歯科医師会として美唄歯科医師会が発足、初代高橋常保会長の時代に、昭和23年三井鉱山三井美唄鉱業所病院に勤務された時から始まる。

その頃の経緯は、氏が道歯会通信、会員のひろばに、美唄今昔として詳しく書かれている。当時の模様を知る上で、少しく、引用してみる。

若いうちだ、北の国の暮らしも面白いかもという、独り者の気軽さからか小生が、北海道に足を印してから、早いもので50年の歳月が過ぎ去ってしまった。

元美唄歯科医師会会長、故扇谷一貫先生のお世話で現在は閉山して久しい、三井美唄炭鉱病院に勤務することになった。終戦後4年目の頃であったろうか。交通事情が大変な頃であったので船の方が楽だということで、戦後初めて就航という大阪商船の白竜丸の処女航海で横浜から小樽に上陸した。

汽車に乗るまえに先ず電報と頼信紙に書いた電文である。あて先を「カラチゲン、ミウタマチ」と記して「キュウコウ、オホユキニノル」と書いたため、駅の電報係に大笑いされたことを今でも覚えている。空知郡をカラチゲンとはともかく、美唄をビバイとはとても読めなかったが、それまで何回か会社とも病院とも手紙を出したり、受け取ったりしていたのに表書きの住所は漢字で通用するための手違いのなせるわざであったのであろう。

三井美唄炭鉱病院の歯科には故扇谷一貫先生が医長で現美唄歯科医師会最年長の高橋常実先生が小生の先輩として勤務をしておられた。美唄歯科医師会会長は故高橋常保先生であった。

3年ほどの勤務の後、三井東圧化学北海道工業所病院（砂川市）に勤務する事10年。昭和36年美唄市で開業の運びとなる。

翌年、即、扇谷一貫会長下の執行部の専務理事に就任。以後、昭和47年より平成8年迄第四代会長として実に35年の長きにわたり、美唄歯科医師会執行部と共に在った。

その間に、道歯代議員2期4年。特に広報担当理事として、ローカルニュースへの投稿は言う迄もなく、人物伝紹介他、そのすべてを取りしきってこられた、といっても過言ではなく、平成9年、広報担当理事を降りたあとも、実質上の執筆者である。

地域医療にも尽力され、美唄保健所運営協議会委員、在位25年。美唄地域医療協議会役員在位18年、美唄市保健センター運営協議会委員、北海道歯科医師国保組合美唄支部長、

北海道歯科国保組合副議長の要の位置にあられる。昭和59年には、美唄市々政功労賞、平成6年には日本歯科医師会々員有功賞、平成9年には、北海道歯科医師会国保連合会表彰、北海道歯科医師会々員顕彰を受賞さる。

特に北海道歯科医師会々員顕彰は、郡市会長25年以上にして、初めて対象になるものであり、道歯会においても日高歯科医師会の佐々木前会長の在位27年に次ぐ、画期的な記録になるのではないかとと思われる。

又、平成10年11月14日、歯科保健事業功労者として、厚生大臣表彰の運びとなった。これは、何度も本記念誌中にも述べられているように、先生の終始一貫、かつ永年の地域医療の向上に貢献されたことを、北海道並びに国のレベルで評価しようとするものである。

先生は、当時、東京市向島区寺島町の生まれであり、多彩で、風流な趣味の中に、流石浅草風流人と思わせるものが、うかがわれる。

犬の飼育、園芸（特にランの栽培）、将棋のほか、俳句、さのさ、都々逸もこなす。

健康に対する情熱とその実践は注目にあたいし、毎朝のジョギングや冬のスキー等、生活を律することにかけては、全国歯科医の範となる。

ご家族は美和夫人との間にお二人のお子様。長女は日本大学芸術学部デザイン科卒業のデザイナー、長男、日本歯科大学卒の安弘氏は新潟にて歯科開業。御盛業中。

